

夏季実践教育講座の様子



「Microsoft Teams と Forms」

参加者自身がいろいろな機能を試していく中で、難しいと感じていたアプリやICTを身近に感じることができました。学習活動や用務に活用できるヒントを得ることができました。また、AIの活用についても使用上の留意事項を知ることができました。



「こころかるた」を使ってみよう



SST（ソーシャルスキルトレーニング）とSGE（構成的グループエンカウンター）についての目的や指導における活用方法について学びました。グループに分かれて「こころかるた」を用いた体験活動では、参加者同士で意見交換しながら活動を進めることで、児童生徒の気持ちへの理解を深めるとともに、コミュニケーションの大切さを実感できました。研修を通して、学級経営や日々の教育活動に生かすことができる多くの示唆を得ることができました。

本校の作業学習について

中学部のクラフト班、高等部の手芸班・縫製班のブースを設け、作業体験を行いました。補助具の活用や写真やイラスト用いた工程表を取り入れることで主体的に取り組めると実感でき、「授業に取り入れたい」といった感想も聞かれました。今回の研修では、地域の小中学校から23名の方も来校され、作業学習の位置付けや生徒の様子について知っていただきました。



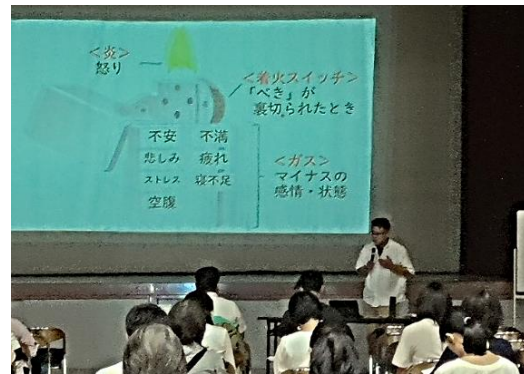
命の大切さを学ぶ教室～授業活用のヒント～



10年前の悲しい事故の被害者遺族としての立場から、ながら運転に対しての法律上の矛盾、被害者遺族に対しての精神的な二次的被害などについてお話をいただき「事故ではなく事件である」という言葉が印象的でした。また、日頃から自分の思いを言葉にして伝えていくことの大切さを絵本を通して教えていただきました。児童生徒への交通安全の啓発や命の大切さを伝え続けることの重要性、また、運転をする者としては、命を奪ってしまう凶器を使用しているのだということを、改めて考えさせられた講義でした。

感情マネジメントについて～感情への対応～

怒りや不安などの感情への理解を深め、その背景を踏まえた適切な支援の方法について研修を行いました。「怒りのタイプ診断」を通して自身の感情の傾向を知り、他の参加者とイライラした経験を共有しながら怒りをレベルで表現するワークに取り組みました。発達特性への理解や感情との向き合い方についても学び、児童生徒理解に基づく支援の重要性を再確認しました。



脳とからだを育む発達支援！「栄養」と「運動」の視点から探るアプローチ



前半は、分子栄養学の視点から発達支援について学び、本校職員より食と発達のつながりへの理解を深めました。「心」や「特性」だけでなく、「身体の仕組み」からのアプローチの重要性を学びました。後半は、理学療法士の錦野圭子先生を講師に迎え、脳に着目した運動アプローチについて研修を行いました。実践的な活動を通して脳と身体の連動を体験し、行動特性だけでなく運動特性にも目を向けた発達支援を学びました。

進路に関する基礎知識研修会 第1部

朝日建物管理株式会社の大久保忠洋さんを講師に迎え、「障害者雇用の実際」の研修が行われました。働くために必要な心構えや、職場で求められる基本的な力など分かりやすく説明していただきました。実際の就労後の様子や学校、家庭、企業が連携して就労を支える視点など、勉強になることばかりでした。



進路に関する基礎知識研修会 第2部



元しらさぎ福祉園園長の野呂大悟さんを講師に迎え、「生活介護と共同生活援助（グループホーム）」の役割や支援について具体例を交えて学びました。また、参加者からの質問を通して、親亡き後の将来や金銭面の不安への理解を深めました。「多くの選択と経験がその子の人生を豊かにする」という言葉が印象に残り、本人が主体的に選択し経験を重ねることの大切さを学びました。

福祉サービス事業所の見学

本校の卒業生も就労している就労継続支援多機能型事業所の名古屋ライトハウスを見学しました。「適材適所」の考えのもと、一人一人に合った就労段階や仕事内容が提供され、働きやすい環境が整えられていました。また、利益の確保と利用者の働く場の両立という課題を抱えながらも、仕事量の確保に努める福祉事業所の努力を感じました。

